プレアクト情報

PRE-ACT INFO

ブラックハウンドの新米警官を主役とする、初心者対応シナリオ。初めて『TNX』に触れるプレイヤーへのシナリオの選択肢のひとつとしてご活用頂きたい。

（掲載日：2017.1.15）

■シナリオ基本情報

▼作者

まだら牛（twitter：@m_Usi）

▼プレイヤー人数

4人

▼想定プレイ時間

4～5時間

▼シナリオタグ

初心者向けチュートリアル、警察、ストリート

●このシナリオについて

初心者プレイヤーへのルールチュートリアルを目的としたシナリオだ。(*0) もちろん、普通のイヌものシナリオとしても遊べる。ストリート犯罪と警察というテーマを扱っており、若干重めのストーリーだ。留意してほしい。

●シナリオレギュレーション

本シナリオの想定レギュレーションを以下に記載する。ただし、使用するデータの変更やRLが調整を行った場合、改めてレギュレーションを提示すること。

▼使用経験点

0～30点

■アクトトレーラー

キャスト作成の前に、アクトのイメージを膨らませるため、以下のアクトトレーラーを読み上げること。

老練の警官が凶弾に倒れ、
一つの真実が闇に消えた。
猟犬の誇りは、邪な欲望と暴力により歪められた。
それは、この街では2秒に一度はある出来事。

N◎VAに蔓延（はびこ）る闇はあまりに深く。
対するブラックハウンドは牙を折られた。
だが、それでも。
まだ、猟犬のプライドは潰えていない。

これは、黄金の猟犬の血を受け継いだ、
あらたなキャスト誕生の物語。

トーキョーN◎VA THE AXLERATION
『受け継がれし猟犬の血』

かくて、運命の扉は開かれた。

(*0) 初心者向け

初心者向けと標榜してはいるものの、あらゆる初心者プレイヤーに適したシナリオというわけではない。

RLは、シナリオ本文のp11のコラム「●本シナリオのコンセプト」に事前に目を通し、このシナリオを遊ぶ「成功のビジョン」を得てから運用してほしい。

■キャスト作成

プレアクトシート（アクトトレーラー、ハンドアウトなど）を参考にキャストを作成すること。

●クイックスタート

本シナリオでは、以下のサンプルキャストを使用することを推奨する。

『①イヌ』：正義の猟犬（『TNX』p84）
『②レッガー』：任侠剣士（『TNX』p96）
『③フェイト』：不屈の探偵（『TNX』p82）
『④トーキー』：遊撃記者（『TNX』p89）

●初心者プレイヤーについて

本シナリオは『TNX』に初めて触れる方へのチュートリアルを目的にしたシナリオだ。

主人公である『①イヌ』がシーンプレイヤーとなるシーンにおいて、『TNX』の遊び方のレクチャーが行われる場面が設けてある。このため、初心者プレイヤーに『①イヌ』のハンドアウトを渡すことを推奨する。特に、N◎VAを初めて遊ぶ方には是非この枠を遊んでもらおう。(*1)

『①イヌ』はクイックスタートの利用、あるいは新規作成キャストを強く推奨する。

●必要な神業

キャストが敵の神業のみでリタイアするのを防ぐために、キャスト全員で最低２個の防御系神業が必要だ。また、《不可触（アンタッチャブル）》と《真実（トゥルース）》には使用想定シーンが存在する。

●主に使用する技能

本シナリオの情報収集で主に使用する社会技能は、〈社会：警察〉〈社会：ストリート〉である。

■キャスト間コネクション

キャスト間のコネは以下の通りに取得する。

『①イヌ』→『②レッガー』→『③フェイト』→『④トーキー』→『①イヌ』

(*1) 初心者対応

本シナリオを遊ぶ場合、なるべくベテランのプレイヤーに『③フェイト』や『④トーキー』などをお願いしよう。

その上で、卓全体の目標を『①イヌ』のプレイヤーにN◎VAのシステムやその楽しさを知ってもらうこと、と設定するといい。これを満たせた場合、ポストアクトの経験点精算において「RLの依頼を果たした」の項目に全員チェックをつけるとよいだろう。

アクトハンドアウト

各キャストには右記の設定が推奨・あるいは追加される。
キャスト作成時によくプレイヤーと相談すること。

『①イヌ』：ブラックハウンド機動捜査課の新米警官
『②レッガー』：河渡連合藤咲組の任侠
『③フェイト』：探偵（所属は問わない）
『④トーキー』：記者（所属は問わない）

①推奨スタイル：イヌ

SCENARIO HANDOUT

コネ：“老犬”羽賀多力弥（はがた・りきや）　推奨スート：理性

君はこの街を守る猟犬、特務警察ブラックハウンドの新米警官だ。そんな君に、猟犬の戦い方と生き様とを教えてくれたのが、熟練の警官、羽賀多だ。

ある日、彼がアサクサの路上で死んでいた。ヤクザの凶弾に倒れたのだという。翌日、この事件の捜査の打ち切りが告げられた。羽賀多が数々の汚職に手を染めていた事実が明らかになったらしい。……君には、納得などできるはずもなかった。

【PS：羽賀多の死の真相を追う】

②推奨スタイル：レッガー

SCENARIO HANDOUT

コネ：“藤の任侠”藤咲竜二　推奨スート：生命

この街の闇を支配するヤクザ、“ネオン菊の息子たち”河渡連合を新たに率いることになった藤咲竜二が、役員審問にかけられるという事件が起きた。なんでも、連合内での成り上がりのためにブラックハウンドと通じていたというのだ。

それが事実だとすれば懲罰は免れない。竜二は代表を降ろされ、小指と名誉を失うことになるだろう。君は組長の無実を証明するために調査を開始した。

【PS：藤咲竜二にかけられた嫌疑を晴らす】

③推奨スタイル：フェイト

SCENARIO HANDOUT

コネ：天沢路子（あまさわ・みちこ）　推奨スート：外界

父の死の真相を探って欲しい。それが、その女性の依頼だった。

彼女の父の名は羽賀多力弥、ブラックハウンドのベテラン警官。路子が幼いころに両親は離婚したため疎遠となっていたが、警察として信念を貫く父親のことを、彼女は誇りに思っていたらしい。

そんな父親が何者かに惨殺され、あまつさえ汚職警官のレッテルを貼られようとしている。心を痛める彼女の願いを、君は聞き届けることにした。

【PS：天沢路子の依頼を果たす】

④推奨スタイル：トーキー

SCENARIO HANDOUT

コネ：クエリ　推奨スート：感情

クエリは君の同業の友人だ。この街で最も危険なネタ……N◎VAにはびこる犯罪組織について追い続けてきた彼女が、何らかの特ダネを嗅ぎつけたらしく、君に連絡をとってきた。

呼び出しに応じていつもの喫茶店に向かった君だったが、彼女が待ち合わせ場所に来ることはなかった。直後、君は知ることになる。クエリの死体が、墨田川に浮かんだということを……。

【PS：クエリの掴んだ情報を追う】

RL用テキスト

TXT 4 RULER

■ストーリー

特務警察ブラックハウンドの熟練警官、“老犬”羽賀多力也が殺された。その後、この事件の捜査は、彼の汚職発覚と共に打ち切りとなる。しかし、これはある者が仕組んだ陰謀であった。

羽賀多は生前、ある存在について密かに追っていた。その存在とは“ジャッカル”というハンドルで呼ばれる闇のフィクサーだ。“ジャッカル”は河渡連合やカーライル・シンジケートなどのあらゆる犯罪組織に介入し、その違法なシノギに協力・斡旋する。私利私欲を肥やすためと思えるその活動の真の目的は、犯罪組織たちの勢力図をコントロールし、N◎VAの治安を一定レベルに維持することにあった。羽賀多は“ジャッカル”が同じブラックハウンドの隊員であり、旧知の仲であるマル暴所属の片岡であることを突き止めた。

街の治安を守るためとはいえ、弱者の犠牲を見殺しにする片岡のスタイルを、羽賀多は良しとしなかった。そんな羽賀多が邪魔になった片岡は彼を殺害。その後、彼のかつての後輩であり、今は河渡連合の会長の座に君臨する藤咲竜二と癒着していたという偽装を行なうことで、事件の揉み消しと藤咲竜二の失脚劇を同時に演出しようとした。片岡は近年の河渡連合の勢力減退を治安維持の観点から危惧しており、その組織の早急な復興のためには、藤咲竜二が掲げるシノギの合法化という方針が邪魔だと考えていたためだ。(*2)

羽賀多の直伝の後輩であるブラックハウンドの新米警官『①イヌ』。藤咲竜二の無実を証明するために奔走する『②レッガー』。羽賀多の娘である天沢路子から依頼を受けた『③フェイト』。そして、この陰謀劇の真相を知ってしまったために消された友人の弔い合戦に出る『④トーキー』。彼らが“ジャッカル”の正体を突き止め、彼に制裁を与えることができればシナリオは終了となる。

■クライマックスへの条件

「●イベント９：蹂躙する者達」の直後。

(*2) シノギの合法化と河渡連合の勢力減退

RLは事前に、『TNX』の以下の記述に目を通し、背景設定を把握しておくこと。

・p35：「■犯罪組織」の小項目「●河渡連合」
・p58：「河渡連合」
・p70：「“藤の任侠”藤咲竜二」

オープニングフェイズ

OPENING PHASE

●オープニング１：猟犬の死

ルーラーシーン

登場：不可

◆解説

オープニング最初のシーン。羽賀多の死を描く。

◆描写

雨が降っている。灰色の街の、薄暗い路地裏。

そこに男が倒れていた。

アスファルトに広がっていく血だまりが、雨で薄まり流されていく。

その姿を見下ろす一人の影が、静かに呟く。

▼セリフ：影の人物（片岡）

「この街の猟犬は死に絶えた。もはや正義など存在しない」

▼セリフ：羽賀多力也

（微かに笑みを浮かべて）「そうでも、無いさ……猟犬の血は、絶えちゃあいない。まだ……アイツが、いる」

◆結末

画面が暗転してシーンエンド。

●オープニング２：たったひとりの捜査線

シーンプレイヤー：『①イヌ』

登場：不可

◆解説

描写１は過去のシーン。『①イヌ』がブラックハウンドに就任した当時のことを描く。羽賀多との出会いを演出したら、時を現在に戻して描写２へ。

◆描写１

少し前のこと。君が特務警察ブラックハウンドに就任したばかりのころ、配属になった機動捜査課で自己紹介を済ませた君に、声をかけてくる男がいた。

古株のベテラン警官、羽賀多力也。後に、君にイヌとしての戦い方を教えてくれた男だ。

▼セリフ：羽賀多力也

「お前の指導を担当する事になった。羽賀多だ。よろしく頼む」

「『①イヌ』。お前さん、どうしてハウンドに入った。言っちゃあ何だが、この職は、割には合わないぜ」

「……そうか。新米らしい甘ちゃんな考えだな。だが、目つきは悪くない。俺がお前を、一人前の猟犬に叩き上げてやる」(*3)

「さ、早速現場だ。ついて来い」

(*3) 羽賀田のセリフ

シナリオ内の記述にこだわる必要はない。『①イヌ』の警察としてのスタイルを確認し、必要であれば導くロールプレイができればよい。

◆描写 2

時は戻る。同ブラックハウンド機動捜査課。羽賀多の殺害事件に騒然となる課内。初動捜査の担当にあてられていた君は、課長室に呼び出された。

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「なあ……悪い、『①イヌ』。この事件の捜査、打ち切りになった」

「おっちゃん……いや、羽賀多巡査部長の、汚職が発覚したんだ。ヤクザと通じてたらしい。そんな事が世間にバレたら大変だってことで、お上はこの事件をもみ消すことに決めたらしい。クソッタレめ！」

「すまん、『①イヌ』。分かってくれ。ただでさえ、オレら機動捜査課は、他との軋轢（あつれき）が強いんだ」(*4)

（振り切った）「お、おい！　『①イヌ』！！」

◆結末

『①イヌ』が捜査に向かったらシーン終了。

●オープニング3：仁義なき男

シーンプレイヤー：『②レッガー』

登場：不可

◆解説

『②レッガー』のオープニング。本シナリオの敵ゲスト、朽梨骸により、藤咲竜二の裏切り行為が告発されるシーン。朽梨の名前はこのシーンでは出てこないが、リサーチフェイズのイベントにて明らかになる。

◆描写 1

この街（NOVA）の夜を統べるヤクザ、河渡連合の会長室。

そこに呼び出された君は、異様な光景を目の当たりにする。河渡連合の重鎮たちがズラリと列席し、若き新会長、藤咲竜二を糾弾していたのだ。

「仁義を通す古風な任侠、それがアンタのウリじゃあ無かったのか、“藤の任侠”さんよぉ、あぁ！？」

小柄だが顔中に傷があり、眼光のギラつく男のその言葉に、部屋の中に異様な緊張感が漂う。

▼セリフ：竜二を糾弾する男（朽梨骸）

（『②レッガー』へ）「来たか。とりあえずこっち来いや」

「よう、藤咲組の。てめえもひでえ親分を持ったもんだな。この新会長様はよぉ、未だブラックハウンドと通じてたんだとよ！」

「まさかてめえ、知らねえのか？　この男は、昔ブラックハウンドのイヌっころだったんだぜ」

「警察に情報を流して反発因子にガサ入れさせて、その座にのし上がったわけだ。汚ねえなあ、こりゃあ裏切りだぜ？」

◆描写 2

「俺は……裏切りなんかしていない！」

そういう竜二。だが、糾弾は止まらない。

「証拠が上がってんだよ！　ハウンドに潜り込ませている組員からの情報だ！」

テーブルに叩きつけられる紙束には、警官と竜二が密会している写真なども混じっていた。

▼セリフ：竜二を糾弾する男（朽梨骸）

「藤咲の身柄は拘束させてもらうぜ。変な動きをされちゃあたまったもんじゃねえからな。おい、『②レッガー』。てめえらが、次の会合までに無実を証明できなきゃ、竜二は破門だ」※《不可触》を使用

▼セリフ：“藤の任侠”藤咲竜二

（連れて行かれる間際、『②レッガー』に）「……悪い。後は、頼んだ」

◆結末

朽梨の《不可触（アンタッチャブル）》の効果により、藤咲竜二の身柄が拘束される。これを打ち消さない限り藤咲竜二と面会はできないということを伝えてシーン終了。

●オープニング4：信じる誇り

シーンプレイヤー：『③フェイト』

登場：不可

◆解説

『③フェイト』のオープニング。天沢路子から、父親（羽賀多）が殺された事件の真相を追うことを依頼される。

◆描写

君の元に依頼が舞い込んだ。依頼人の名は天沢路子。年若く控えめな印象だが、芯の強そうな瞳をした女性だった。

▼セリフ：天沢路子

「先日、父が殺されました。父の名は羽賀多力也。ブラックハウンドの警官です」

（苗字の話が出る）「幼いころ、両親が離婚したんです。私は母に引き取られて。父は仕事に一途すぎて、家庭の主としてはちょっと、ダメでしたから」

「父は汚職の末、ヤクザの恨みを買って殺されたと報道されています。でも……そんなはずないんです」

「私、先日、弁護士の資格をとったんです。この街で虐げられている弱者を守るための仕事がしたくって。父のイヌとしての生き様（スタイル）に、少なからず影響されたのかもしれません」

「その報告で久々に父に連絡をとったんです。その時、父は多くは語りませんでしたが、少し嬉しそうに笑って、こう言ってました」

「『そうか。なら、父さんも、お前に誇れる仕事をしないとな』って」

「そんな言葉を発した父が、汚職なんかするはずがないんです！　お願いします、探偵さん。父の無実を証明する手がかりを、掴んで下さい」

◆結末

依頼料の3シルバーを渡してシーンエンド。

(*4)「分かってくれ」

このタイミングで、『①イヌ』には【PS】を渡すといいだろう。ここでは課長の説得を振り切り、羽賀田の死の真相を追う分からず屋なロールプレイが求められている。

●オープニング5：弔い合戦

シーンプレイヤー：『④トーキー』

登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『④トーキー』のオープニング。クエリの死を描く。

◆描写1

深夜。寝ている君のポケットロンにコールがかかった。発信元はクエリだ。

こんな時間に外にいるのだろうか、やや息を切らしたような声でまくしたててくる。

▼セリフ：クエリ

「もしもし？　『④トーキー』ちゃん、今空いてるッスか？　寝てたッスか？　明日時間取れないッスか？　なるはやがいいッス」

「相談したいことがあるんッスよ。特ダネっす。興味ないっすか？　一人じゃキツくて手伝ってほしいんッスよ、ダメっすか？」

「直接会って話したいッス。合流場所は、いつものユニバ（*5）でいいッスか？」

◆描写2

待ち合わせの喫茶店（ユニバ）。いつまで経っても、クエリが姿を見せる様子はない。

連絡を取ろうとポケットロンを取り出した君は、ふと街頭DAKのニュースに目を奪われる。

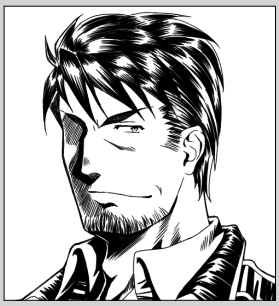
『今朝、墨田川で遺体が発見されました。被害者はフリーの記者、クエリ氏。SSS（スリーエス）では殺人事件と見て……』

◆結末

『④トーキー』が店を立ったらシーンエンド。

(*5) ユニバ

チェーンのコーヒーショップ。ユニバース・ラウンジ。『TNX』p63参照



“老犬”羽賀田力也

タタラ、カブトワリ、イヌ◎●

▼設定

「猟犬の血は、失われちゃいない。アイツが……あのシンマイが、俺の血を継いでいる」

ブラックハウンド機動捜査課に所属していた、老練の警官。56歳。巡査部長。古き良きオールドタイプのイヌであり、後輩や部下からの信頼も厚い。

警察内部に、犯罪組織を支援する“ジャッカル”というフィクサーの存在を嗅ぎつけ、その正体を突き止めた。だが、“ジャッカル”の手により殺害され、汚職の濡れ衣を着せられた。

▼スタイル技能

〈†アドバイス〉　2♠♣♡◇

▼神業

既に死亡しているため神業は使用しない。

天沢路子

エキストラ（ミストレス◎）

▼設定

「父が、汚職なんてするはずがないんです！」

羽賀田力也の実の娘。22歳女性。両親が離婚し、母方に引き取られたため、名字が異なる。

家庭を顧みず仕事一筋な父を、「母を不幸にしたダメな父親」と感じていたが、それでも正義を貫く父の姿に大きな影響を受けてはいる。新星帝都大学法学部を卒業したばかりの、弁護士の卵。

▼神業

使用しない。

クエリ

エキストラ（トーキー◎）

▼設定

「アタイは信じたいんッス。あの日アタイを助けてくれた、正義のおまわりさんのこと」

新進気鋭の若手トーキー。26歳女性。

N◎VAのストリート犯罪という危険なネタを追う命知らずなトーキー。会話中に質問を連発する生粋のインタビュワー。

身寄りも法の庇護もないXランク市民の出であり、子供の頃にそんな自分を助けてくれた正義の警察官（藤咲竜二）を追っている。

▼神業

使用しない。

リサーチフェイズ

RESEARCH PHASE

●イベント1：猟犬の戦い方

シーンプレイヤー：『①イヌ』
条件：リサーチフェイズ最初のシーン
登場：〈社会：警察、ストリート〉／SR：イエロー

◆解説

最初のイベント。シーンの目的は、『①イヌ』のプレイヤーに情報収集判定をレクチャーすることだ。

◆描写 1

“現場百遍”――それが、羽賀多の最初の教えだった。その教えに従い、君は現場にやってくる。

そこで、色あせた黄金の猟犬バッヂを拾う。羽賀多が胸につけていたものだ。

君の脳裏に、羽賀多と共に最初に事件を捜査していた時のこと……彼の教えが想い起される。

▼セリフ：羽賀多力也（回想）

「『①イヌ』。お前、警察の仕事とはなんだと思う？」
（答えた）「いい線をついているが、違うな」
「いいか、『①イヌ』。俺達の仕事はとにかく情報収集だ。地味な仕事さ。だが、情報が無ければ犯人（ホシ）を挙げることも、何を裁くべきなのか判断することもできない」
「情報収集の基本は足（アシ）、人脈（コネ）、金（カネ）(*6) だ。とにかく街中を歩き回って聞き込みをしろ。使えるものはなんだって使え」

◆システムチュートリアル 1

【羽賀多殺害事件】について情報収集判定を行う。この時、以下のルールを説明しながら判定を行わせる。

[判定の基本ルール]……『TNX』p.112
[技能判定]……『TNX』p.114
[情報収集]……『TNX』p.148
[都市社会技能の使い方]……『TNX』p.121

使用できる技能は〈社会：警察〉〈社会：ストリート〉などだが、それ以外の技能でもプレイヤーの意見を積極的に採用するとよい。目標値は 13、15 だ。(*7)

▼目標値 10：現場検分をした SSS の検察

「死因は銃痕です。後ろから心臓目掛けて一発。ど真ん中貫いてました。凄腕……いや、神業ですよ、アレ」
※《とどめの一撃（クーデグラ）》が使用されている

▼目標値 13：聞き込み

「ちょうど事件の数時間前、その警官さんが男と会っているのを見たんだ。ありゃあ**【河渡連合】**の組長、**【藤咲竜二】**だよ、間違いない」
「警官がヤクザと一緒に酒場に入るなんてねえ、この街の警察はどうなってんだか」

◆結末

【】で囲まれた単語は情報収集のあらたな項目名（キーワード）であることを伝えること。判定を終え、情報を入手できたらシーンエンド。

●イベント2：朽梨骸

シーンプレイヤー：『②レッガー』
条件：リサーチフェイズの第２シーン
登場：〈社会：ストリート〉／SR：イエロー

◆解説

朽梨骸が『②レッガー』に接触を取ってくるシーン。このシーンの目的は【朽梨組】の情報キーワードを『②レッガー』に渡すことだ。

◆描写

組長のために動き始めた君に、話しかける者がいる。先の会合で竜二を糾弾していた男だ。

彼の名を、君は知っている。河渡連合の幹部のひとり。【朽梨（くちなし）組】組長、朽梨（くちなし・むくろ）骸。

▼セリフ：朽梨骸

「よう、『②レッガー』。さっきはどやして悪かったな。いやいや、ろくでもない組長を持つと苦労するなァ」
「オイオイ、マジで律儀に組長の疑いを晴らそうってか？　無駄なことはよして、さっさと見限っちまえよ。なんなら、お前ら、ウチで面倒見てやろうか？　親子の盃 (*8) を交わしてやってもいいぜ」
「やってない？　ハッ。阿呆が。てめえは元々警察にいたような人間を信用すんのか？　警察は俺らの敵だろうが。お前ら藤咲組の人間は揃いも揃って能無しのボンクラどもだな、アァ？」
「こんなのが連合を率いるだと。反吐が出る」
「せいぜいがんばんなあ、クソッタレどもが」

◆結末

朽梨骸は退場していく。『②レッガー』の演出でシーンを閉じること。なお、情報収集などをシーン中に行ってもよい。

(*6) アシ、コネ、カネ
それぞれ、情報収集判定で使用する社会技能、コネ技能、報酬点を示している。

(*7) 目標値
判定の達成値が足りない場合、回想シーンの羽賀田が〈†アドバイス〉の判定を行い、達成値を＋4する。

(*8) 親子の盃
親分子分の関係を結ぶための儀式。つまり、藤咲組を見限り、朽梨組の組員に成り下がれ、と言っている。

“アウトレイジ”朽梨骸
クロマク、カタナ●、レッガー◎

▼設定
「死人に口無しってな。さっさと死にさらせや！」

河渡連合ナンバー２の梨矢会傘下組のひとつ、朽梨組の組長。好戦的、かつ目的のためには手段を選ばない性格であり、彼にとって「甘ちゃん」でしかない藤咲竜二とは早くから対立していた。

“ジャッカル”の手引によりアサクサでブラックマーケットを展開。そこで得た資金を使い、軍備を整えている。

組長でありながら、抗争においては自ら巨大な刀を取り回し、前線で敵を蹂躙していく剣客でもある。

●イベント3：共闘

シーンプレイヤー：『③フェイト』
条件：リサーチフェイズの第3シーン
登場：〈社会：ストリート$_{など}$〉／SR：イエロー

◆解説

『③フェイト』のシーン。フリーの情報収集シーンではあるが、ここではもう一つ、リサーチフェイズを進める上で重要な「登場判定」「合流」「チーム化」についてのチュートリアルも行う。『①イヌ』には登場を促すこと。

なお、シーンプレイヤーには『①イヌ』に向けた回想シーンが入ることを説明し、了承を得ること。

◆描写（『①イヌ』の回想）

『①イヌ』は、かつて捜査中に羽賀多が言っていた事を思い出す。

▼セリフ：羽賀多（回想）

「事件の解決の為には、時には民間人に頼らなきゃならんことがある」
「特に探偵（フェイト）や報道者（トーキー）なんかは、ブラックハウンドのデータベースでも把握できていないような、この街の実情に精通している。彼らには積極的に協力を仰げ」
「『素人の助けなんて』なんて妙なプライドなんか持つなよ。俺達のプライドってのは、とにかく事件を解決する、その結果にだけ持ってりゃいいんだ」

◆システムチュートリアル2

『③フェイト』の演出、判定などをひと通り終えたのち、『①イヌ』に登場判定を行ってもらう。以下のルールを説明すること。

[登場判定]……『TNX』p.149
[チーム]……『TNX』p.151

自力で登場できない場合、『④トーキー』に登場してもらい〈コネ〉で呼び出してもらう、などの手段をとってもよい。

他のキャストと合流することによる情報キーワードの交換についても説明を行うこと。

◆結末

情報交換を済ませたらシーンエンド。

●イベント4：正義官

シーンプレイヤー：『④トーキー』
条件：【クエリ】の情報を全て得た
登場：他のキャストの登場不可

◆解説

『④トーキー』の回想シーン。生前のクエリとの会話を描く。彼女が河渡連合について調査していた理由を知るシーンだ。

◆描写

かつて、何故クエリが危険なヤクザ関係のネタを追うのか聞いたことがあった。

彼女は照れくさそうに、“歯抜けた”(*9) 口をニッと笑わせて答える。

▼セリフ：クエリ

「そちらから質問ッスか？　珍しいッスね、いつもはアタイが質問してばっかなのに」
「……アタイ、小さい頃は、身寄りのないXランク (*10) だったんッス。墨田川の向こうで、残飯を漁るような日々を送ってたッス」
「知ってるッスか？　無登録市民（ムトウロクシミン）には人権なんかないッス。殺されてもナニされても、警察は探してもくれないし、死んでも線香ひとつ上げてもらえないッス」
「アタイも、ある事件で殺されかけたんッス。覚えてるッスか？　むかし、こどもの頭蓋骨掻っ捌いて脳味噌取り出すっていう猟奇的な事件があったッス (*11)。しかも、その事件を裏で操ってたのは天下のメガ・コーポだったッス。普通、助からないと思うッスよね？」
「でも、そんなアタイを助けてくれたおまわりさんがいたんッス。信じられるッスか？　……それから、アタシはそのヒーローにお熱なんスよ」
「そのおまわりさん、誰だと思うッス？」
「……彼の名は、藤咲竜二」
「そ。今の河渡の代表ッス」
「ずっと疑問だったッス。なんで、あの人がヤクザになったのか。今アサクサで民間人を虐げてるのは、本当に竜二さんの意志なのか」
「あと少しなんス。あと少しで、この疑問が解ける。信じたいんッス。あの日アタイを助けてくれた、正義のおまわりさんのことを」

◆結末

回想を終えたらシーンエンド。このシーンを見た後、【クエリ】に関する追加情報をリサーチ可能になる。

●イベント5：マル暴の漢

シーンプレイヤー：『①イヌ』
条件：［片岡のアドレス］に向かった
登場：〈社会：警察〉／SR：ホワイト

◆解説

本シナリオの真の黒幕である片岡と会話をするシーン。このシーンでは、彼はキャスト達の協力者であるという表現に留めること。

ただし、シーンの終わりに〈★心理〉の判定をさせることで、違和感をプレイヤーに抱かせる。

◆描写

君は、羽賀多が死ぬ前に連絡を取っていたという男、片岡の元を訪れていた。

組織犯罪対策課……通称マル暴は、組織の性格から強面の隊員が多い。そんな中、一見柔和そうな表情をした、しかしキレものであることが容易に読み取れる男が片岡その人だった。

(*9) 歯抜けた
のちのちの伏線となる描写だ。描写を読み上げる際には、やや注意を引くように意識して意味ありげに読み上げること。

(*10) Xランク
『TNX』p31「市民ID制度」を参照。市民IDを持たない、法的には存在しない人間として扱われる未登録市民をXランクと呼称する。基本的人権や法の庇護すら得られない。

(*11) 昔の猟奇的事件
誤解を生まぬよう、この事件は本シナリオの展開とは無関係であることを、必要に応じてプレイヤーに伝えてほしい。
なお、N◎VAの歴史に興味がある方向けにお伝えすると、この事件とは「ブレインハンター事件」のことだ。

▼セリフ：片岡

「僕が片岡だ。君の事は、羽賀多からよく聞いてたよ。骨のあるシンマイがいるってね」

「アイツの死、残念だ。本当に」

（羽賀多を疑っているかと聞かれると）「僕はアイツとは古い付き合いでね。あの男が警官一筋のカタブツなのを知っている。汚職なんてするはずがない。それは、僕が一番良く知ってるよ」

「ハメられたんだろうな。許せない。だから、僕も独自にアイツの死の真相を追っているんだ」（*12）

「やったのは河渡連合ってヤクザだ。それは間違いない。で、おそらくその中でも【朽梨組】が絡んでる」

「気をつけろよ、軍隊並みの戦力を備えたバリバリの武闘派だ」

◆結末

片岡と別れる間際、『①イヌ』に〈★心理〉で判定させること。達成値が片岡の［制御値］を超えた場合、片岡に対する正体不明の違和感(*13)を感じる。彼と別れたらシーンエンド。

●イベント6：警告

シーンプレイヤー：『④トーキー』

条件：【朽梨組】に関する情報を得た後、任意のタイミングで

登場：〈社会：ストリート〉／SR：イエロー

◆解説

『④トーキー』の元に朽梨の腹心、サトウが現れ、脅しをかける。

◆描写

ふらりと、君の前に男が現れた。どんよりとした目つきの男。手に持った紙袋から角砂糖を取り出しては、口に運んでいる。

▼セリフ：サトウ

（のっぺりとした口調で）「……どうも、サトウといいます。ま、“その筋”の人間です」

「どうです、貴方、ここらで手を引きませんか。その方がお互いの為ですよ」

（プラチナムの束を投げながら）「いわゆる、黄金色のあまーいお菓子ってやつです。」※《買収(M&A)》を使用

（断った）「貴方、頭に糖分足りてないんじゃありませんっ？　あの頭の悪いトーキーにそっくりです。この街じゃ長生きできない人種です」

「私、頭の悪い人間、嫌いです」

◆結末

サトウはぶつぶつ言いながら去っていく。情報項目キーワード【サトウ】を渡すこと。

●イベント7：シンマイ

シーンプレイヤー：『②レッガー』&『①イヌ』

条件：［藤咲竜二のアドレス］へ向かった

登場：〈社会：ストリート〉／SR：グリーン

◆解説

［藤咲竜二のアドレス］へ向かうと発生するシーン。ただし、藤咲竜二は朽梨の《不可触》により拘束されているため、この神業を打ち消さない限りアドレスへたどり着くことはできない。

打ち消すための神業は『②レッガー』の《不可触》を想定している。

◆描写

河渡の保持するセーフハウスの一室。そこに、藤咲竜二は拘束されていた。

▼セリフ：藤咲竜二

（『②レッガー』に）「すまん、手間をかけさせたな」

（『①イヌ』に）「お前が、話に聞いていた“シンマイ”か」

「先輩……羽賀多先輩から聞いたのさ。懐かしいな。俺もかつて、そう呼ばれていた」

「俺は確かにあの日、先輩と会った。だがそれは内通のためじゃない。忠告を受けていたんだ」

「先輩は秘密裏にある捜査をしていた。追っていたのは【ジャッカル】と呼ばれるブローカーについてだ。なんでもそれは河渡の命運を裏で操っている存在だという。そいつにとって、俺が邪魔になったらしい、ということも言っていた」

「先輩は……こうも言っていた。ブラックハウンドを、これから将来を担うシンマイたちが誇れるような組織にしたいってな」

「俺はもう、警察(そっち)の世界には戻れない。だが俺は俺なりに極道者として、この街を護るために戦うつもりだ」

「だから、そっちは頼んだぞ。“シンマイ”」

◆結末

藤咲竜二は『①イヌ』の《制裁(パニッシュ)》に《ファイト！》を使用する。竜二の元を後にしたらシーンエンド。

▼設定

「やだやだ。頭悪い人、嫌いなんですよね」

朽梨組の会計係。偽名。朽梨骸の《腹心》であり、参謀。荒事にも強く、ボディガードも兼務。抜け目がなく知恵者。いつも紙袋に入った角砂糖を食べている。

アサクサのブラックマーケットを実質的に取り仕切っている。

“ジャッカル”と骸の取引現場を目撃したクエリを殺した張本人。

サトウ

タタラ、カブト、エグゼク◎●

(*12) 片岡のセリフ

全てでまかせであり、本心ではない。

なお、ここで『①イヌ』に朽梨組の情報を流したのは、仮初の信用を得るためでもあり、『①イヌ』を窮地に立たせるためでもある。

(*13) 違和感

そもそも、〈★心理〉の判定が発生する時点で、キャストが判定に成功するか否かに関わらず、プレイヤーは違和感を覚えるだろう。それが、この判定の目的である。

なお、具体的にどのような違和感を持つのか、については細かに説明しなくてもいい。ここでこれ以上片岡に突っ込んでも、特に情報は出てこないことをプレイヤーに伝えること。

●イベント8：疑問の答え（Q&A）

シーンプレイヤー：『④トーキー』
条件：SSSの死体安置所へ向かった
登場：〈社会：警察〉／SR：グリーン

◆解説

クエリの残した映像データを入手・再生するシーン。この映像を見ることで、“ジャッカル”がブラックハウンドの警官であること、そして朽梨組と結託していることが明らかになる。

◆描写1

SSS（スリーエス）の死体安置所。そこに、墨田川から引き上げられ、検死済みのクエリの遺体が横たわっていた。

その口を確認すると、本来あるはずの彼女の歯の“欠け”がない。そこには、差し歯型の記憶素子（ストレージ）が挿し込まれていた。

◆描写2

クエリの視界映像が再生される。

深夜。違法ドラッグの大量取引現場。二人の男の声が聞こえる。

一人は朽梨骸。もう一人は視界に対し背を向けており、その顔はうかがい知れない。

朽梨はプラチナムの束をその男に放り投げる。

▼セリフ：朽梨と“ジャッカル”の会話

「しかしまぁ、犯罪の斡旋して小遣い稼ぎとは、昨今のブラックハウンドも落ちぶれたもんですなぁ」
（プラチナムを懐にしまいながら）『北米（カーライル）との抗争で瀕死になったお前らが、誰のお陰でここまで立ち直ったと思っている？』
「ヘェヘェ、感謝してますよ。資金運営も軌道に乗った。軍備の拡充も順調だ。あとはあの邪魔な藤咲のぼっちゃんさえいなくなりゃあ、河渡の将来は安泰ってぇわけだ」
『安心しろ。そっちも、じきに解決する』
「クックッ、よろしく頼みますぜ。安心しなぁ、カーライルのクソ共は俺らがぶっ潰してやるからよぉ」

▼セリフ：クエリ

（踵を返し走り始める）「警察が、朽梨組と組んで竜二さんを亡き者しようとしてる……なんて」
「もしもし？　『④トーキー』ちゃん、今空いてるッスか？　寝てたッスか？　明日時間取れないッスか？　なるはやがいいッス」
（通信を切って）「アタイが救うんだ……竜二さんを。あの日と同じように正義を貫こうとしている、あの人を……！」

◆結末

曲がり角に差し掛かった時、その先に突如現れる、角砂糖を齧る男。右手には銃。

銃声と共に画面が暗転し、シーンエンド。

●イベント9：蹂躙する者達（アウトレイジ）

シーンプレイヤー：『③フェイト』
条件：イベント8後、【“ジャッカル”】の情報を得た
登場：〈社会：ストリート〉／SR：イエロー

◆解説

リサーチフェイズ最後のシーン。天沢路子が拉致され、キャストたちが朽梨組の待ち構えるアジトに呼び出される。（クライマックスの［アドレス］が渡される）

◆描写

突如、『③フェイト』のポケットロンが鳴る。通話を繋ぐと、出たのはガラの悪い男の声。

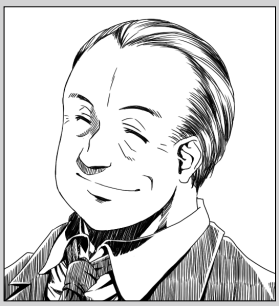
そして送られてくる映像データ。そこに映っていたのは、両手両足を縛られ口を封じられ、体中を傷めつけられた、天沢路子の姿。

▼セリフ：朽梨骸

「ヨォ、クソ探偵（フェイト）ども。よくもまあ色々と嗅ぎまわってくれたようじゃねえか」
「頭のいいテメエらなら、この映像を見て取るべき行動ってのは分かるよな？」
「今から指定する場所に来い。余計な動きをするなよ。この女の無事を願うなら、よーく考えて行動するんだな」

◆結末

通信が切れ、キャスト達が敵地に向かったらシーンエンド。



“ジャッカル”片岡

カゲ●、カブトワリ、イヌ◎

▼解説

「安易な正義感じゃあ、この街は守れないんだよ」

ブラックハウンド組織犯罪対策課、通称マル暴に所属する刑事。羽賀田とは旧知の仲。柔和な表情で隠して入るものの、かなりのキレ者。多くの犯罪組織の人間たちと対等に渡り歩く手腕を持っている。

裏の顔は、"ジャッカル"というコードネームで呼ばれるブローカー。複数の犯罪組織と癒着し、彼らの違法なシノギを斡旋・仲介する。ただし、彼の目的は私服を肥やすことではない。あくまでも、犯罪組織間の勢力図を安定化させ、均衡状態を保つことにより、大きな抗争などで発生する天文学的な被害を未然に防ぐことにある。

多くを救い治安を維持するために、少数を生贄のごとく犠牲にする姿勢が羽賀田と対立し、結果、旧知の彼を殺すこととなった。

■情報項目

各キャストが最初から得ており、情報収集が可能なキーワードは以下のとおり。

『①イヌ』：羽賀多力也
『②レッガー』：藤咲竜二
『③フェイト』：羽賀多力也
『④トーキー』：クエリ

◆“老犬”羽賀多力弥

〈コネ：羽賀多力弥〉〈社会：警察〉

07　古くからブラックハウンドに所属しているベテラン警官。先日、アサクサの路上で死体で発見された。

10　実は【河渡連合】という【ヤクザとの繋がり】があり、汚職に手を染めていたらしい。社会ダメージ［5：汚名］を受けている。(*14)

15　死ぬ前に【片岡】という同僚と連絡をとっていた。

〈コネ：天沢路子〉〈社会：ストリート〉

10　『①イヌ』という後輩に非常に目をかけていた。

15　殺される直前まで、秘密裏にある犯罪者を追っていたようだ。【羽賀田が追っていた犯罪者】

◆ヤクザとの繋がり

〈社会：ストリート〉

14　【藤咲竜二】と内通し、警察の内部捜査情報などを流す代わりに多額の金銭などを受け取っていたらしい。最近、彼とトラブルがあったらしく、その縺(もつ)れにより始末されたと思われる。

17　この情報には偽装の跡が見られる。極めて巧妙な（神業が使用されている）ため、偽装者を特定した上でその対象に《真実(トゥルース)》などの神業を使用しなければ立証は不可能。(*15)

◆藤咲竜二

〈コネ：藤咲竜二〉〈社会：ストリート、警察〉

10　N◎VAのヤクザの大元締めである【河渡連合】を率いる連合会長。会長就任して間もない。基本ルールブックのp70の情報を渡すこと。

12　かつて、特務警察ブラックハウンドに所属していた経歴がある。河渡の会長の座に君臨するために、警察と通じて内部の邪魔な勢力を排除していたというが……。

13　現在、彼の身の潔白を証明するために、部下の『②レッガー』が動いている。

15　ここ最近、密かに【羽賀多力弥】というハウンドの警官と連絡を取り合っていたらしい。

〈コネ：藤咲竜二〉のみ

成立　彼がハウンドで“シンマイ”と呼ばれていたころ、彼を指導していたのが【羽賀多力也】だった。

◆クエリ

〈コネ：クエリ〉〈社会：メディア、ストリート〉

07　若き女記者。『④トーキー』の友人。先日、墨田川で水死体として発見された。遺体はSSS(スリーエス)の遺体安置所(モルグ) (*16) に安置されている。

10　N◎VAに蔓延る犯罪組織、特に【河渡連合】について追っていた。

13　最近は【アサクサのブラックマーケット】について調べていたようだ。

15　幼いころはレッドエリアに済むXランクのストリートキッズだった。その頃に、ある警官に助けられた経験があるらしい。→「●イベント4：正義官」へ

▼イベント後に追加される情報

〈コネ：クエリ〉のみ

成立　彼女は自分の取材内容を死守するため、取材時には自分の視覚映像を、差し歯に偽装したストレージに保存していた。

◆河渡連合

〈コネ：藤咲竜二〉〈社会：ストリート〉

12　N◎VA最大のヤクザ組織。アサクサを中心にシマを持つ。ルールブックの基本情報参照。近年、北米のマフィア、カーライル・シンジケートとの抗争に敗れ、大きく勢力を減退させた。

14　先日就任したばかりの新会長【藤咲竜二】は、違法なシノギを粛清し、組織のビジネス合法化を推進している。これに反発する古参の組も少なくないようだ。

17　近年、【アサクサでブラックマーケット】を展開しているという噂がある。

◆羽賀田が追っていた犯罪者

〈コネ：羽賀田力也〉〈社会：警察〉

12　ただ一人、その人物の詳しい情報を羽賀田から聞いていた人物がいる。【藤咲竜二】だ。→［藤咲竜二のアドレス］を入手

◆片岡

〈社会：警察〉

10　ブラックハウンド刑事部組織犯罪対策課（マル暴）所属のベテラン刑事。羽賀多とは旧知の仲。

12　温厚な外見だがキレ者で、数多くの犯罪組織を検挙してきた実績を持つ。裏社会の情報に精通しており、その筋の捜査をする際には有益な話が聞けるだろう。［片岡のアドレス］を入手。

(*14) 社会ダメージ［5：汚名］
(*15) 神業による偽装

これはいずれも、片岡の使用した《制裁》による、羽賀田への社会戦ダメージの結果だ。

つまり、《真実》を使用すべき相手は片岡だ。

(*16)SSSの遺体安置所

SSS。民間警察シノハラ・セキュリティ・サービス。『TNX』p61参照。

なお、モルグはアサクサ支所にあるとする。SSSは下請け警察と揶揄され、上位警察であるブラックハウンドのバッヂをかざせばおおよそ大人しく言うことを聞く。つまり、『①イヌ』が向かえば遺体安置所に入ることが可能だ。

◆アサクサのブラックマーケット

〈コネ：クエリ〉〈社会：ストリート〉

14　マフィアとの抗争に敗れ、スラムでの市場を失った河渡連合が、近年秘密裏にアサクサで展開している闇市場。ドラッグ、児童買春、臓器売買など、あらゆる違法なシノギの博物館のようになっている。流通経路などが巧妙に隠されており、未だ警察にも存在を感付かれていない。

16　そこで得た資金を使って、大量の兵器を買いあさっているようだ。マフィアとの抗争で反旗を翻すためだろう。

18　取り仕切っているのは【朽梨組】だ。この市場の存在は河渡連合内でも秘匿されている。

(*17) この情報が開示されたシーン以降、舞台裏でゲストが判定を行なう。柱の記述参照。

◆朽梨組

〈社会：ストリート〉

13　河渡連合の古参の組のひとつ。バリバリの武闘派で、他勢力と渡り合う為に軍力を強化している。組長は"アウトレイジ"朽梨骸（くちなし・むくろ）（クロマク◎）。

16　利益を上げるために手段を選ばないレッガーらしいレッガーであり、幅広く違法なシノギに手を染めている。河渡のビジネス合法化を進める【藤咲竜二】とは早くから対立していた。

18　ブラックハウンドに【内通者】を忍ばせているらしく、そこから藤咲竜二の裏切り行為の事実を掴んだらしいが……。

◆内通者

〈社会：ストリート、警察〉

14　朽梨骸が提示した証拠は間違いなくブラックハウンド内部の資料であった。内通者の存在は事実のようだ。

16　朽梨組の構成員がブラックハウンド内に潜り込んだという事実は存在しない。内通者は元々ハウンド隊員だったものと考えられる。

◆サトウ

〈社会：ストリート、企業〉

13　【朽梨組】の会計係（エグゼク◎）。本名ではない。いつも角砂糖を食べていることからその名で呼ばれている。

15　朽梨骸の腹心。組の参謀的な役割。偽装工作や荒事にも精通しており、骸のボディガードも務めている。（カブトのスタイルあり）

17　彼が、朽梨組にとって都合の悪い真実を突き止めたクエリを殺害した。

◆"ジャッカル"

〈コネ：羽賀多力也〉〈社会：警察、ストリート〉

12　羽賀多が追っていた人物。数々の犯罪組織と癒着し、影で操りながら、この街の治安を一定レベルにコントロールしているという存在。犯罪組織の勢力図の維持のためであれば、彼らの犯罪を見逃すどころか、斡旋や隠蔽なども行なうという。【アサクサのブラックマーケット】の斡旋も彼が行った。(*18)

15　羽賀多とヤクザとの癒着を偽装した張本人である。使用されている神業は《制裁（バニッシュ）》だ。

17　警察関係者、特に犯罪組織に詳しい人間だと考えられる。

21　羽賀多はソレを「身内の恥」と呼んでいた。彼と旧知の中にある人間だと考えられる。

(*17) 舞台裏での判定

この情報が開示されたシーン、およびその次のシーンの計２回、舞台裏で朽梨骸が〈†ブラックマーケット〉の判定を行い、報酬点を６点×２回得る。

(*18) ジャッカル

もし『CTL』のSPSルールを採用する場合、この情報を得たタイミングで【ＳＰＳ："ジャッカル"に正しい制裁を与える（経験点５点）】を配ること。

クライマックスフェイズ

CLIMAX PHASE

●クライマックス1：治安を維持するもの

◆解説

クライマックス第１シーン。朽梨組と対峙する。

描写２において、キャスト達の助太刀に来たという演技で“ジャッカル”片岡が登場する。彼を信用したまま戦闘に入ると、彼は〈完全奇襲〉によりキャストを攻撃することが可能になる。(*19)

すでにここでプレイヤーたちが片岡の正体に気づいており、彼に《真実》を撃った場合、描写３へ進んでその正体を明らかにする。

◆描写１

レッドエリアのスラム街の一角。鉄骨がむき出しの廃ビルの中に、朽梨組のヤクザたちが待ち構えていた。地面には、天沢路子が両手足を縛られ、口をガムテープで封じられて転がされている。

▼セリフ：朽梨骸

「来たな、クソども。よかったなあお嬢ちゃん。正義の味方が助けに来てくれたぜ？」

「揃いもそろって阿呆どもだよなあ。正義とか人情とか、そんなクソくだらないものを守ろうとしたやつが、この街でどんな死に方するのか、あのお陀仏ったオイボレ警官を見て学ばなかったのかねぇ？」

（路子のガムテープを剥がす）「さあ、思いっきり助けを乞いな！　安心しろよ、あいつらの尊い犠牲で、お嬢ちゃんの命は助けてやるよ」

（路子のセリフを聞いて）「オイオイ、マジかよ、どいつもこいつもイカレてんなあ！？」

▼セリフ：天沢路子

（ガムテープを剥がされた）「――私はどうなっても構いません。『③フェイト』さん、おまわりさん！　この悪党たちに、どうか正しい制裁を！」

◆描写２

「そこまでだ！」

君たちの後ろから、銃を構えた一人の人物が姿を現す。黄金の猟犬のバッヂをつけた刑事。片岡だ。

「『①イヌ』くん、応援に来たよ。朽梨組を追い詰めるとは、さすがは羽賀田の見込んだシンマイだ」

◆描写３（※片岡に《真実》を使用した）

「いや、なるほど。本当に優秀だ。アイツの言っていた、猟犬の血は絶えていないってのは、本当だったかもな」

片岡の表情（ペルソナ）が変わる。警官（イヌ）のから、死神（カゲ）のそれに。

▼セリフ：“ジャッカル”片岡

「そう、僕が“ジャッカル”だ。で、一応聞いておく。僕に組む気はないか？　藤咲組が進めているシノギの合法化……これによる河渡連合の戦力低下は、結果的にこの街の被害者を増やすことになる。犯罪組織は根絶やしに出来ない以上、ちょうどいい拮抗状態を維持しなければならない」

「わかりやすく言えば、治安維持の観点において、今の河渡にはもう少し力をつけてもらわなければならないってことだ。分かるかな？」

（否定した）「やはりな。羽賀田も同じことを言っていた。だから邪魔になった。『①イヌ』くん、悪いが死んでもらうよ。あの世で羽賀田と仲良くな」

◆結末

片岡が《不可知》を使用。『①イヌ』を攻撃する。

神業でこれを防いだら次のシーンへ。（《真実》を使わない場合、《不可知》は使用せず、そのまま次のシーンへ）

●クライマックス2：受け継がれし猟犬の血

◆解説

カット進行直前のシーン。

『①イヌ』に《制裁（パニッシュ）》の便利な使い方の一つを紹介する目的のシーン。本シーンに登場している朽梨組トループは戦闘で相手にすると敵わないほど強力な敵(*20)であることを伝え、彼らを排除するための手段として《制裁（パニッシュ）》で［社会戦ダメージ17：逮捕令状］を与えることを促す。

◆描写１

戦いの火蓋は落とされる。だが敵の数は多く、いずれも潤沢な資金によって買い漁った武装でガチガチにサイバーアップされている。それはまるで、一国の軍隊のような様相だった。

◆描写２（※《制裁》を使用した）

その時、外からサイレンの音が鳴り響いた。

刹那。廃ビルの奥の壁に一瞬の剣閃が走り、そこが扉のように切り抜かれる。その向こうに日本刀を構えた“暴走課長”レイの姿があった。

「フリィーーーズッ、ブラックハウンドだ！　『①イヌ』、助太刀に来たぜ！」

その声を皮切りに、機動捜査課の隊員達がなだれ込み、朽梨組の組員たちと死闘を繰り広げ始める。

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「こっちは任せろ！　親玉はお前がしょっぴくんだ、『①イヌ』！！」

◆カット進行

敵は片岡、朽梨骸、サトウの３人。配置は以下。

[片岡]--(近)--[キャスト]--(近)--[朽梨骸、サトウ]

◆結末

敵を全て倒したらシーンエンド

(*19) 片岡の〈完全奇襲〉

本シナリオではアクトルールにより、片岡の正体が戦闘開始までに暴かれている場合は使用できない、とする。

(*20) 朽梨組トループ

具体的にどの程度強いのかと聞かれたら、全身義体「虎兵」を装備したカタナ８レベル１００人トループと説明する。

なお、まともに敵として相手にすることを想定していないので、詳細なデータは用意していない。もしプレイヤーが意気込んで戦おうとした場合、素直に「神業の使用を想定しているからデータは用意していない」と告げて納得してもらおう。

エンディングフェイズ

ENDING PHASE

各キャストとこれまでの物語に相応しいエンディングを演出すること。ここでは一例を示す。(*21)

●エンディング1：手向けの花

シーンプレイヤー：『④トーキー』

◆解説

『④トーキー』のエンディング。《暴露》を未使用であれば、使用を促すこと。描写の例は、クエリの墓参りに来ていた藤咲竜二との会話。

◆描写

アサクサ集合墓地。無縁仏を供養するために建てられたその霊園に、クエリは埋葬されることになった。この集合墓地は、近年、藤咲不動産により設けられたものだ。

君が墓参りにやってくると、そこには先客がいた。

河渡連合総代、藤咲竜二だ。

▼セリフ：藤咲竜二

「『④トーキー』さん、ですね。部下から聞きましたよ。此度の件では、大変迷惑をかけました」

「クエリちゃんの、友人だったそうで」

「因果なものです。イヌだったころに救えた命が、今度は俺のせいで失われてしまった。かつて助けた女の子に、今度は助けられてしまった。極道稼業に戻るときに腹をくくったつもりでしたが、どうにもやりきれなくなってしまう」

「いえ、失礼。見も知らぬ方に、弱音を吐いてしまった。たしか、報道者（トーキー）さんでしたよね。立場上、今のは忘れていただけると助かります」

◆結末

キャストの言葉でシーンを締めること。

●エンディング2：信念の剣

シーンプレイヤー：『③フェイト』

◆解説

『③フェイト』のエンディング。依頼主の天沢路子から礼を言われる。

◆描写

君の事務所に、天沢路子が訪れる。朽梨から痛めつけられた傷も、ようやく癒えたようだ。

▼セリフ：天沢路子

「先日は、助けていただきありがとうございました。父の汚名もそそいで頂いて……なんとお礼を言ったらいいか」

「拉致されて、痛めつけられて、思い知りました。この街の不条理や暴力……闇は、あんなにも深かったのか、って。父も、『③フェイト』さんも、いつもあんなものと立ち向かっていたのですね……」

「生半可な覚悟では、立ち向かえない。だからこそ、私は、立ち向かう信念を持った方を尊敬します」

「今回の一件があって母には反対されましたが、やはり、私も弁護士として、立ち向かう生き方を選ぶつもりです」

「また、依頼をすることがあるかもしれません。次は、業務上の依頼として。その時は、どうかよろしくお願いします」

◆結末

キャストの言葉でシーンを締めること。

●エンディング3：悪魔の盃

シーンプレイヤー：『②レッガー』

◆解説

『②レッガー』のエンディング。河渡白夜(*22)から呼び出され、労われる。

◆描写

君は河渡連合理事長、河渡白夜の呼び出しで、彼の古巣であるバー“ミッドナイト”を訪れていた。

▼セリフ：河渡白夜

「『②レッガー』、まあ一杯飲め。今回お前は竜二の兄貴の窮地を救った最大の功労者なんだからな」

「朽梨は反・藤咲勢力の筆頭だった。河渡を一枚岩にするために、ヤツらを削ぎ落とせたのはでかい」

「朽梨のブラックマーケットの後始末は、河渡組（うち）が引き受けることになった。竜二の兄貴が嫌いそうな商売は引き上げつつ、“ジャッカル”が容易してくれた便利なインフラは有効に利用させてもらうつもり、さ」

「しかし、『藤咲が総代になることで河渡が弱体化する』、か。どいつもこいつも分かってねえよなあ」

「オレたちなら、間違いなく頂点をとれるってのにな。『②レッガー』、今後の働きにも期待してるぜ？」

◆結末

キャストの言葉でシーンを締めること。

●エンディング4：猟犬たちの午後

シーンプレイヤー：『①イヌ』

◆解説

『①イヌ』のエンディング。片岡に対して《制裁》を使う、ないしは羽賀田にかけられた《制裁》による社会ダメージ［5：汚名］を回復することができれば、ブラックハウンド内での羽賀田の名誉は回復される。

描写の例は、レイとの会話だ。

(*21) エンディングの注意点

本シナリオでは、自身のシナリオコネの対象が死亡しているキャストが2人いる。それぞれに対し、墓参りなどの似通ったエンディングを行うと、演出の「被り」が発生し、締まらないものとなりやすい。

シナリオで示しているエンディングの一例は、似通ったエンディングにならないようにシチュエーションを工夫してみた。記述と異なる、キャストに合わせたエンディングを行う場合にも、上記の点には留意して工夫してもらえると助かる。

(*22) 河渡白夜

河渡連合ナンバー2。"真夜中の太陽" 河渡白夜。

『TNX』p70 参照。

藤咲竜二に心酔しつつも、彼が行うことが出来ない裏の汚れ役を一身に引き受ける、計算高く狡猾で、よりレッガーらしい男。今回の騒乱の沈静化に、彼が動かなかったのには、どういった意図があったのか。『②レッガー』と白夜はどんな関係か？ ……そういった事に想像を巡らせてみるのも面白いだろう。

◆描写

羽賀田巡査部長の汚名がそそがれ、改めてブラックハウンドでは、殉職者の葬儀がとり行われた。彼を慕っていた隊員たちは多く、多くの列席者たちが、羽賀田の死を悼んでいた。

しかしそんな中でも、N◎VAの犯罪は減ってはくれない。喪に服す暇もなく、君は現場に駆り出される。

▼セリフ：“暴走課長”レイ

「『①イヌ』、事件だ。お前が一番近い。現場に急行してくれ」

「現場はウェットシティ。殺されたガイシャは河渡の幹部、殺したのはマーダーインクだ。グリーンエリアのど真ん中で好き勝手やってくれるぜ」(*23)

「なあ、オレには難しいことは分かんねえんだけどさ、あの片岡って元刑事が言うことが本当に正しいんだとしたら、これから、こういった犯罪が増えるってことなのか？」

「やれやれ、やりきれねえなあ」

「そいつら全員、オレたちがしょっぴかねえといけねえんだからな。『①イヌ』、これから忙しくなるぜ」

◆結末

『①イヌ』が事件現場に向かっていくところでシーン終了。

(*23) ウェットシティで起きた事件

“ジャッカル”が居なくなったことにより犯罪組織どうしの均衡状態が崩れたのではないか……という示唆として演出している。むろん、どう捉え、どう立ち向かうのか。それはキャストたち次第だ。

なにはともあれ、『①イヌ』の猟犬としての戦いは始まったばかりだ。

このシナリオについて

●本シナリオのコンセプト

初心者用のシナリオというと、一般的にはシンプルでわかりやすいストーリーで、世界設定や組織・人物など、把握しなければいけない情報を少なめにしたシナリオがよいと言われている。

しかし、どんな相手にも一律にそのようなシナリオが相応しいとは言えない。たとえばTRPGそのものには慣れており、N◎VAの空気感に興味を持つ人、あるいはある程度ルールブックを読み込み、世界設定やキャラクターなどを把握しているが、プレイ機会に恵まれなかった人などにとっては、ある程度ガッツリと世界設定に触れるシナリオもよいのではないかと思う。

本シナリオは、初心者対応シナリオのひとつの選択肢として、ある程度重厚な、N◎VAの世界設定をしっかりと組み込んだシナリオとなっている。もちろん、このシナリオを選ぶべき局面は限られるだろう。よりライトで分かりやすい導入を目指すのであれば、基本ルールブック付属シナリオなどを選ぶべきだ。

●新たなキャスト誕生の物語

本シナリオの主人公は『①イヌ』だ。シンマイの『①イヌ』が先輩の教えを思い出しながら、一人前の警官として一人立ちするまでの物語である。

本シナリオの『①イヌ』は、新造のキャストを強く推奨する。迷ったのであれば、サンプルキャラクター「正義の猟犬」を使用するとよい。なお、タイトルのイメージイラストでは、主役を明らかにするために「正義の猟犬」の姿が描かれているが、キャストのイメージが異なる場合は、みなさんの脳内でキャストの姿に置き換えて見て欲しい。

●藤咲竜二のファンシナリオとしての側面

本シナリオでは、公式キャラクターのひとり、“藤の任侠”藤咲竜二（人気なキャラだ）の過去が大きなウェイトをもって語られる。彼のファンシナリオとしての側面も持つシナリオだ。藤咲ファンの方と遊んでも、喜ばれるかもしれないな……。

“ジャッカル”片岡

カゲ●、カブトワリ、イヌ◎

▼設定

「悪いね。この街の治安を維持するために死んでくれ」

ブラックハウンドの刑事でありながら、N◎VAの秩序レベルを一定に保つために暗躍する闇のブローカー。被害者の総数を減らすために、少数を切り捨てる道を選んだ男。

▼神業

□不可知　■とどめの一撃　■制裁

▼能力値／制御値

♠理性：8／11　♣感情：1／10
♥生命：6／10　◆外界：6／15

▼戦闘データ

【CS】7　【AR】1
【防御力】S：4／P：5／I：6

▼一般技能

3♠♧♥◆　★射撃
2♠♧♥◇　★回避
2♠♧♥◇　★自我

▼スタイル技能

2♠♧♥◇　†死点撃ち　(TNX209)
4♠♣♥◆　†完全奇襲　(TNX209)
2♤♧♡◇　クイックドロー　(TNX050)
2♠♧♥◇　緊急回避　(TNX050)
1♠♧♡◇　即応態勢　(TNX050)

▼アウトフィット

・MP12……電：12／隠：12（TNX234）
オートマチックピストル。攻：P+5　射：近
・MAX17……電：14／隠：—（TNX239）
防弾プロテクター。防（S／P／I）：2／3／4　制：-2
・フォーマリティ……電：14／隠：15（TNX238）
防弾スーツ。防（S／P／I）：2／2／2
・閃鋼……電：16／隠：15（TNX241）
神経加速装置。セットアップで使用し、【CS】+6

▼戦闘プラン

セットアップに閃鋼を使用し、【CS】を13に。
《真実》により正体がバレていない場合、『①イヌ』に〈射撃〉〈†完全奇襲〉〈†死点撃ち〉で後ろから攻撃。リアクション不可、ダメージ［X+13］。正体がバレている場合、〈†完全奇襲〉は使用できないとする。
ドッジでは〈★回避〉〈緊急回避〉の組み合わせで、対決に敗北してもダメージを4点軽減する。［対決：不可］に対しても〈即応態勢〉を組み合わせればリアクション可能。

“アウトレイジ”朽梨骸

クロマク、カタナ●、レッガー◎

▼設定

「死人に口無しってな。さっさと死にさらせや！」

藤咲組に反目する朽梨組の組長。抗争の場では自ら長ドスをとり前線に出る凄腕の剣客でもある。
好戦的で粗暴、目的のために手段を選ばない男。卑怯イカサマなんでもござれの戦闘スタイル。

▼神業

□腹心　□死の舞踏　■不可触

▼能力値／制御値

♠理性：5／11　♣感情：4／13
♥生命：6／12　◆外界：6／12

▼戦闘データ

【CS】7　【AR】1
【防御力】S：2／P：2／I：3

▼一般技能

3♠♧♥◆　★白兵
3♠♧♥◆　★回避
2♠♣♡◇　★自我

▼スタイル技能

2♠♧♡◆　†ブラックマーケット　(TNX201)
3♠♧♥◆　鬼の爪　(TNX204)
2♤♣♥◇　見切り　(TNX204)
1♤♧♥◇　†修羅　(TNX205)
2♠♧♥◇　†旋風撃　(TNX205)
3♤♧♡◇　イカサマ　(TNX212)

▼アウトフィット

・降魔刀……電：—／隠：5（TNX234）
太刀。攻：S+4　受：2
・鎖帷子……電：—／隠：15（TNX238）
護身用インナー。防（S／P／I）：1／1／1
・アーマージャケット……電：14／隠：15（TNX238）
ボディアーマー。防（S／P／I）：1／1／2
・剛猿……電：13／隠：12（TNX242）
強化人工筋肉。白兵攻撃のダメージに常時+2

▼戦闘プラン

メインプロセスでは、〈★白兵〉〈鬼の爪〉〈†修羅〉〈†旋風撃〉の組み合わせで降魔刀での白兵攻撃。対象：範囲（選択）、達成値＋3、攻：S+6+差分値ダメージ、ダメージ軽減技能使用不可。
肉体ダメージを受けたら1カット1回まで〈見切り〉。［判定に使用したカードの数字］点のダメージ軽減。

サトウ

タタラ、カブト、エグゼク◎●

▼設定

「頭、大丈夫です？　糖分足りてます？」

朽梨組の会計係。ブラックマーケットの運営や取引など、シノギの実質的な指揮をとっている。無表情で淡々とした口調だが、頭のキレる男。常に知略を巡らせているために絶えず糖分を摂りつづけている。

▼神業

□タイムリー　□難攻不落　■買収

▼能力値／制御値

♠理性：7(10)／14　♣感情：3(6)／10
♥生命：5(8)／11　◆外界：6／13

▼戦闘データ

【CS】7　【AR】1
【防御力】S：3／P：3／I：4

▼一般技能

3♠♧♥◆　★射撃
3♠♧♥◆　★回避
2♠♣♡◇　★自我

▼スタイル技能

2♠♧♡◆　†爆破工作　(TNX187)
3♠♧♥◆　†撃ち返し　(TNX191)
2♤♧♡◇　運命の輪　(TNX202)
3♠♧♥◆　†支援要請　(TNX203)

▼アウトフィット

・AKR48……電：13／隠：3（TNX235）
アサルトライフル。攻：P+6　射：近～中
・アーマージャケット……電：14／隠：15（TNX238）
ボディアーマー。防（S／P／I）：1／1／2
・フォーマリティ……電：14／隠：15（TNX238）
防弾スーツ。防（S／P／I）：2／2／2
・憑狗……電：—／隠：18（TNX255）
精神暗示サイコアプリ。【外界】以外の能力値+3。使い捨て

▼戦闘プラン

第1カットのセットアップで〈†支援要請〉の判定。リサーチフェイズに朽梨骸の〈†ブラックマーケット〉で得た報酬点12点を消費し、対象：範囲（選択）の相手がカット中与えるダメージを+6する。
最初に行うマイナーアクションで憑狗を失用。能力値を（　）の中の数値へ変更する。
メインプロセスでは、〈†爆破工作〉で判定。攻：I+12　射：近～中。
近～中距離にいる味方への物理・精神攻撃に対し、〈射撃〉〈†撃ち返し〉でリアクションを行うこともできる。【AR】消費。対決に勝利すると行動自体を失敗させる。［対決：不可］へは〈運命の輪〉で対応可能。

■本作品について

本作品は、株式会社エンターブレインより刊行された『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』や、その関連商品を取り扱った二次著作物（シナリオデータ）です。
『トーキョーN◎V A THE AXLERATION』とその関連商品、および『ゲーマーズ・フィールド誌』は、有限会社ファーイースト・アミューズメント・リサーチの著作物です。
本書の内容はフィクションであり、実在する歴史上の人物、団体、地名などとは一切関係がありません。
また、本書は特定の思想、信条、宗教などを擁護あるいは非難する目的を持って書かれたものではありません。

■利用規定

本作品は無料で自由にアクトに利用することが出来ます。
ただし、シナリオを使用した際には必ず、作者にシナリオやアクトの感想を送ってください。
シナリオ製作者にとって、なによりの励みは感想を貰えることです。
ホームページ（http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/）の各シナリオのダウンロードボックス内のツイートボタンを押し、感想ツイートを投稿してください。
（このため、本シナリオを使用するには twitter アカウントが必要になります）

また、シナリオの利用の際には以下の規約をお守りください。

① シナリオの著作権は各シナリオの作者にあります。
② シナリオの再配布、商用利用はご遠慮ください。
③ 投稿されているシナリオを利用したリプレイやプレイ動画の公開、あるいはコンベンションイベントでの使用など、特殊な使い方に関しては事前に作者に連絡を取り、可否を確認してください。

トーキョーN◎V A THE AXLERATION　投稿型シナリオ共有サイト

Neuro/CrowD

投稿シナリオ No.032　『受け継がれし猟犬の血』

発行日：2017.1.15

執筆（著作権者）　まだら牛
イラスト　鶉衣

企画　ニューロ／ＣＤ製作委員会
ＤＴＰ　まだら牛
素材　Z-design

連絡用メールアドレス：dapple_ox@gmail.com
サイトＵＲＬ：http://dappleox.web.fc2.com/nova/NeuroCrowD/